

第7回箕面市総合計画策定委員会議に対する意見（五藤）

1. 進行管理について（基本構想3ページ、基本計画8ページ、意見のまとめ23ページ）

基本計画第3章第2節「計画実現のために」の一つの項目として「成果指標の評価・検証」に進行管理に関する記述がみられるが、計画実現のための取組の一つには違いないものの、他の項目とは性格が異なる要素があり、また、総合計画の進行管理を市民協働で実施するというのは、次期総合計画とこれまでの総合計画と大きく異なる点の一つなので、節を分けて第3節「計画の進行管理」（または「計画達成度の評価・検証」など）として、もっと具体的な仕組みやシステムを明記すべきである。前回の意見のまとめの23ページにもある通り、政策立案の段階から協働の核となるシステムや機関の早期確立を明記することを提言し、各委員からは全く異論が出されなかったのに、何故改善されていないのか理解できない。

2. 総合計画の位置づけと個別施策（基本構想2ページ）

（1）子どもの目線を尊重する施策（基本計画32ページ～、意見のまとめ12ページ）

相変わらず子どもの権利や意見、目線を尊重する取組が見られない。その必要性を謳いながら「現時点でそのための具体的な取組を想定していない」ことが取り上げない理由と言うが、総合計画でその方向性を明確にして、具体的な取組を検討するのが本来の姿ではないのか。市民会議の提言書も参考にして、是非加えていただきたい。

（2）温室効果ガス発生削減目標（基本計画40ページ、意見のまとめ13ページ）

このような基本的な目標値は、まず総合計画に設定し、詳細を個別計画に委ねるべきで、個別計画が決まっていないから総合計画に目標を設定できないというのは本末転倒である。

3. 財政運営の考え方（基本計画6ページ、67ページ）

当初確認された方針である個別政策と財政との整合性が全く検証されていないのは残念であるが、ここでは単に見通しということではなく、基本的な方針として明記すべきではないか。

財政運営の基本的な枠組みを2013年度以降は経常一般財源ベースで収支均衡させるということだが、その場合経常収支比率等の達成目標と矛盾しないのか（確認）。

グラフも単なる見通しとするのではなく、また、歳入・歳出の凡例も経常一般財源など具体的に書いた方が市民にはわかりやすい。

4. 障害者施策（基本計画17ページ）

取組の体系が「障害者施策を推進します」より具体的でわかりやすくなったが、「ノーマライゼーション」は障害者のみならず高齢者施策などにも共通する理念なので、例えば「障害者が普通の市民と同じような生活が出来る環境を整えます」とするなどもう一工夫できないか。

5. 総合計画書としての体裁（意見のまとめ1ページ）

最終的には「計画書」としてまとめられ市民や関係機関にも公表されるのだから、その時のプレゼンテーション機能にも充分配慮すべきである。未熟な、またはわかりにくい表現を改める、節ごとの書き方のばらつきを極力減らし全体のバランスを整えることが必要であろう。